一本杉通りの復興方針

四季と五感と向う三軒両隣りを、
ずっとずっと紡ぎ続ける一本杉通り

石川県七尾市一本杉通り
令和七年三月



ご挨拶

歴史という過去の人々の営みから勇気をもらうことになりました。

令和６年元旦に起こった能登半島地震により、一本杉通り商店街も大きな被害を受けました。突然の災害で、私たちの住む街が大きなダメージを受け、日常の基盤も揺らぎました。生活面では、断水により水の確保すらままならず、飲料水や生活用水を分け合いながらの生活が続きました。倒壊した建物や散乱した家財の片づけは、肉体的な疲労だけでなく心にも大きな負担を与えました。

一本杉通り商店街は６００年の歴史を誇ります。七尾港という良い港の恩恵もあり、人々と物資が行き交う活気ある街でした。通りに連なる店舗は、商売をする場としてだけでなく住居としても機能し、人々の生活が溢れており、時を経ても変わらず、商いに励み、暮らしを築き、お客様との交流を大切にする日々が続いてきました。洪水や大火事などの災害があっても、この街の人々は店を再建し、住まいを再興してきました。その再起の歴史があるからこそ、今の私たちがあるのだと深く心に刻んでいます。

今回の震災は非常に大きく、破壊的でしたが、きっと乗り越えることができると信じています。これからＩ００年先、２００年先の世代に誇れるよう、皆で商店街の再生を進めていきたいと思います。

一本杉通り振興会 会長

高澤　久

目次

P.2～P.3
「一本杉通りの復興方針」とは

P.4～P.5
一本杉通りの魅力とは

P.8～P.17
一本杉通りの被害と復興の現在地

P.18
一本杉通りが目指す姿

P.19～P.27
実現のための５つの方針

P.28～P.31
策定までの流れ

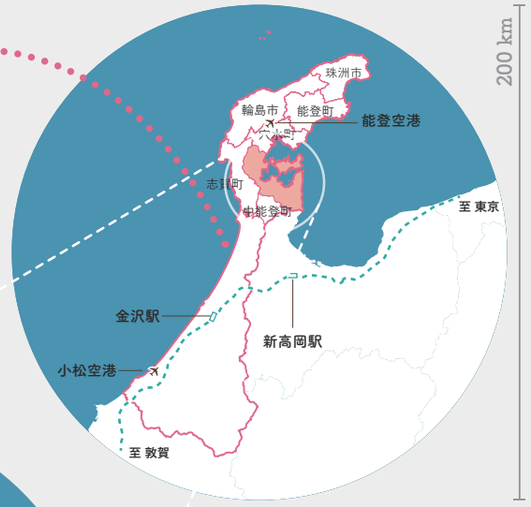
P.32～P.33
一本杉通り千年憲章

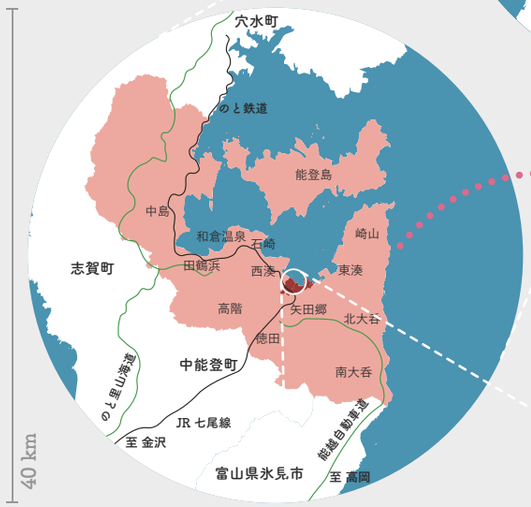
私たちのまちは、

石川県

人口

2024 年 1 月 1 日　1,107,848 人　475,088 世帯
2025 年 1 月 1 日　1,096,721 人　475,025 世帯





七尾市

人口

2024 年 1 月 1 日　48,264 人　21,766 世帯
2025 年 1 月 1 日　46,488 人　21,236 世帯

一本杉通り です

一本杉通りは、石川県七尾市の中心市街地に位置し、複数の登録有形文化財が建ち並ぶ、歴史情緒のある通りです。住まいと商いが一体となり、伝統文化、芸術、食などに関わる多様な取り組みを長年積み重ねてきました。能登半島地震により大きな被害を受けましたが、発災の１ヶ月後から一本杉復興マルシェを開催するなど、再建に向けて動き出しています。



「一本杉通りの復興方針」とは



私たちは、「一本杉通りの復興方針」策定により、一本杉通りにかかわる多くの方と、このまちのことや思い描く将来像を共有し、発信したいと考えています。行政機関やまちを支援してくださるみなさまとも、同じ方向をむいて協働していくことを目指します。

なお、方針が関わる主な地域としては、一本杉通り及び一本杉通り振興会の事業者が面する通りを想定しています。

「一本杉通りの復興方針」をつくるねらい

1 一本杉通りの価値や課題を再確認します

一本杉通りの魅力や課題を、一本杉通りに関わる方々と共有すること、さらには将来、一本杉通りに関わる方々と共有することを目指します。

2 一本杉通りのみんなでやるべきことを確認します

一本杉通りではこれまでいろいろな独自の取り組みをしてきました。復興のタイミングでも、通りに暮らすみんなで力を出し合って、一本杉通りの復興に取り組んでいきます。

3 まわりの人と協働するためのきっかけとなります

七尾市や石川県などの行政機関、地域内外の様々な企業や支援団体、教育機関などと協働や連携しながら、一本杉通りの復興を進めていきたいと考えています。

4 一本杉通りの“そと”へメッセージを発信します

一本杉通りを応援してくださる方々にむけて、この方針を通じて、これからどんな一本杉通りを目指すのかをお伝えします。
これからもぜひ一本杉通りに多くの方に来て、通りを楽しんでいただきたいと思っています。また一本杉通りは、新たなお店や住民を歓迎します。

一本杉通りの魅力とは

復興を考えるときには、地域の課題の解決を考えるだけではなく、地域の魅力とはなにかを考える必要があります。「一本杉通り千年憲章」という、2007年に一本杉通りの魅力についてまとめた冊子を作っていました。この言葉を参考にしながら、一本杉通りの魅力を改めて議論しました。

一本杉通りは、600年以上の歴史を有し、現在の宝達志水町今浜から珠洲市寺家に繋がる内浦街道の一部に位置します。
町家建築のほか、明治時代以降の様々な時代の建物が軒を連ねる歴史情緒のある通りです。

七尾市の中心市街地の骨格は近世初頭の前田利家による小丸山城築城を契機として形成されてきました。御祓川の南北軸とそれに直行する内浦街道の東西軸が町の骨格となり、東西に細長いまちができました。明治時代には二度の大火に見舞われました。

住まいと商いが一体の通り

歴史情緒のある通り

復興の歩みが見える通り

専門店が並ぶ通り

目的地となるお店がある通り

活発に活動してきた商店街

伝統文化、芸術、食などに関わるイベントなど多様な取り組みを長年積み重ねてきました。被災後も2024年2月から一本杉復興マルシェを開催するなど、再建に向けて動き出しています。

一本杉通り周辺の建物の現況（2025年2月下旬時点）

0　50　100　200 m

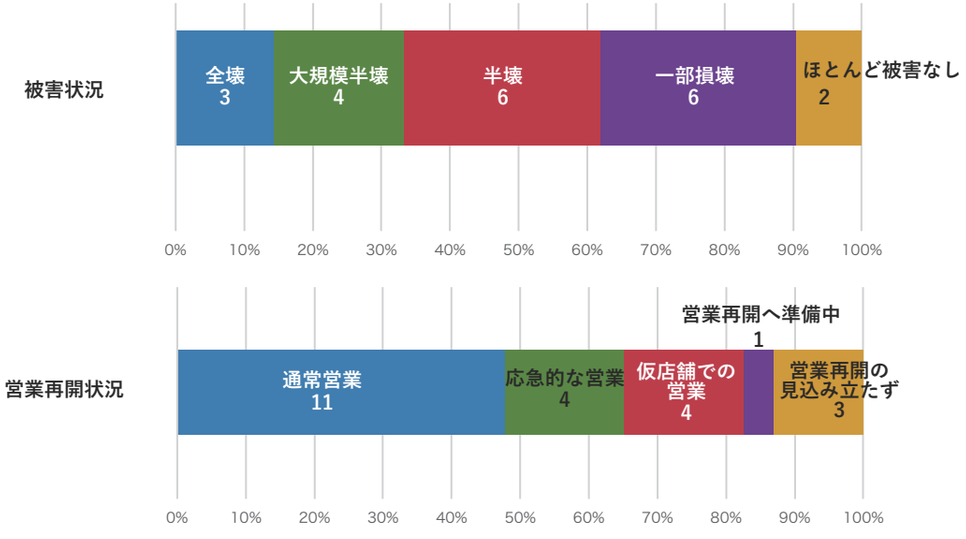
- 解体済みの建物
- 建て替え中
- 被災後に新たに建設された建物
- 国登録有形文化財
- 一本杉通り及び一本杉通り振興会の事業者が面する通り

一本杉通りの被害と復興の現在地



一本杉通り振興会会員事業者の被害状況

2024 年 8 月 25 日～9 月 10 日に一本杉通り振興会のインターン生がヒアリング調査した結果です。



一本杉通り周辺の物理的な被害



地震の大きな揺れで
通り沿いの建物は大きな被害を受けました。
1 階部分が潰れてしまった建物もありました。



電柱が傾き、道路の路面もデコボコになってしまいました。







登録有形文化財の建物にも被害が生じました。
仮店舗での営業が続いている事業者も複数います。













通り沿いに建てた石灯もこのような状態に。
夜間、通りが暗くなってしまいました。



1ヶ月以上、断水が続きました。



周辺の寺社の被害も大きいです。

一本杉通りの復興のあゆみ

2024年1月1日　令和6年能登半島地震 発災

2/11 第1回一本杉復興マルシェ



3/2 第2回一本杉復興マルシェ

4/7 第3回一本杉復興マルシェ

5/5 第4回一本杉復興マルシェ・ちびでか山ワークショップ



6/2 第5回一本杉復興マルシェ

7/7 第6回一本杉復興マルシェ

8/3 第7回一本杉復興マルシェ

8/16 仮設商店街オープン

10/6 第9回一本杉復興マルシェ

※第8回一本杉復興マルシェ（9/1）は台風接近のため中止

11月 花嫁のれん展 @東京・旧安田楠雄邸



11/3 第3回うますぎ一本杉＋第10回一本杉復興マルシェ



11/23 空想の空き地ワークショップ

12/1 第11回一本杉復興マルシェ


撮影：山田康太

発災から1ヶ月後の2月11日に第1回目の一本杉復興マルシェを開催しました。





毎回テーマを設定し、季節のイベントとも関連づけながら毎月開催していました。





2024年の青柏祭は中止となりましたが、第4回の一本杉復興マルシェでは、ちびでか山ワークショップを開催しました。明るい声が通りに響きました。






撮影：山田康太


撮影：山田康太


撮影：山田康太





初めての復興マルシェ開催の背中を押してくださったのは、南三陸町さんさん商店街のみなさんでした。
第５回の復興マルシェには駆けつけてくださり、元気づけてくださいました。







地震後の片付けも、復興マルシェやうますぎ一本杉の開催も、全国からのボランティアの方々に支えられました。







俳優・若村麻由美さんのお声がけで、〝笑顔のバトン〟プロジェクトとして、
毎回の一本杉復興マルシェにゲストの方が来てくださいました。

「笑顔のバトン」で来てくださったゲストの方々

第１回 若村麻由美さん



第２回 佐藤直子さん



第３回 南野陽子さん



佐藤直子さん



第４回 金子昇さん



第５回 岡本健一さん



第６回 若村麻由美さん



高島礼子さん



第７回 若村麻由美さん



村上信夫さん



第９回 円地晶子さん



羽田美智子さん



第 10 回 伍代夏子さん



多岐川舞子さん



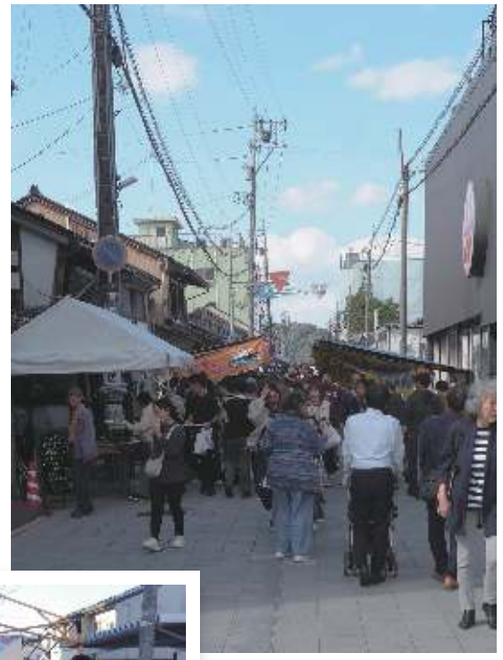
第 11 回 石原詢子さん



堀内正美さん













秋の大市に合わせた「うますぎ一本杉」を 2024 年も開催することができました。
大勢の方に来ていただき、ボランティアの方々がびっくりしていました。



駐車場だったところに市が仮設店舗を整備しました。
被災前に地域外で営業していた事業者含め、
4 店舗が営業しています。



住宅の再建も始まっています。

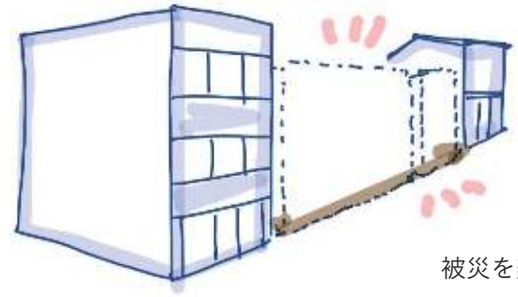
一本杉通りとその周辺で
これから懸念されることは…

人口の
流出

事業者の
減少
（経営者の高齢化・
後継者不足）

空き店舗、
空き家、
空き地の発生

↓



一本杉通りの “歯抜け感”

被災を契機に
人口流出や事業者の減少などが加速することで、
一本杉通りに「空き」が目立つようになり、
一本杉通りの魅力が減退していくことが懸念されます。



公費解体が徐々に進んでいます。



一本杉通りが目指す姿

四季と五感と向う三軒両隣りを、
ずっとずっと紡ぎ続ける一本杉通り

1

いろんな「屋」が
いっぱいある町です

新しい商いをしたい、
これからも商いを続けたい
と思える通りを目指します

2

住んでる人が住んでる人を
互いにもてなす町です

帰りたい、移り住みたい、
これからも住み続けたいと
思える通りを目指します

3

聞き上手な
語り部たちがいる町です

来たい、また訪れたいと
思える通りを目指します

復興を考えるうえでは、地域の課題の解決を考えるだけではなく、
地域の魅力とはなにかを考え、
それをよりよくすることも考える必要があります。
一本杉通りの魅力については、
2007 年に「一本杉通り千年憲章」という冊子を作っていました。
「一本杉通り千年憲章」の言葉を基に、目指す姿を設定しました。





撮影：山田康太

実現のための５つの方針

一本杉通りの魅力とこれから懸念されることを踏まえ、
目指す姿を実現するための５つの方針を設定します。
これは、一本杉通りに暮らす私たちが取り組むことと、
行政機関や御祓地域づくり協議会を始めとする、
様々な方々と協働で取り組みたいことの、
具体的な内容を挙げています。

方針１　明治から令和の家並みが息づく町

**方針２　いろんな「屋」のふだんの魅力と
ハレの日の魅力とを届ける**

**方針３　チャレンジを応援して
目的地となる“お店”を増やす**

方針４　まちの「復興」を外にひらく

方針５　井戸端のある町、災害に常に備える町

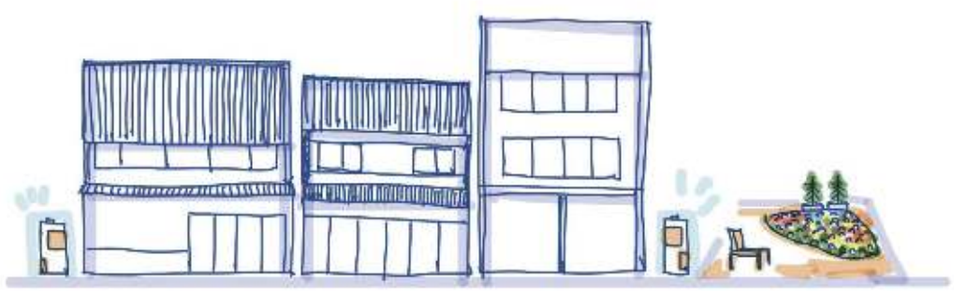
方針１
明治から令和の家並みが息づく町

＃空間整備　＃空き空間活用　＃復興事業との連携

一本杉通りの景観づくりに取り組んできましたが、地震により、建物・道路・石灯などが損壊してしまいました。また建物の解体により多くの空き地が発生する見込みで、その景観や管理が課題です。修理可能な建物が解体されると地域の空き家・空き店舗が減少し、移住や新規出店がしにくくなるデメリットもあります。

一方で、これまでも一本杉通りでは建物様式が統一されてきたわけではなく、明治以降の各時代の建物が混在しながら、通りに正面を向けて立ち並んできた魅力があります。

一本杉通りらしいまちなみをこれからも考えていきます。



個々の店舗・住宅の再建を進めます
石灯の修復を進めます

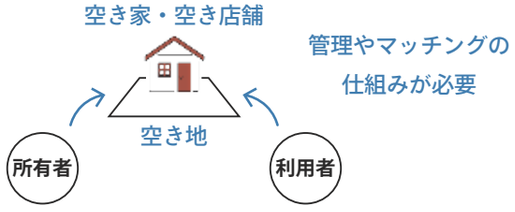
進行中

公費解体が進む中で、順次、個々の店舗・住宅の再建を進め、魅力ある通りを作っていきます。

進行中 空き地の暫定利用の実証

すぐには住宅や店舗が建設されない空き地については、花やベンチ、簡易なデッキなどを設えた、期間限定の憩いの場づくりに取り組みます。被災した古材の活用も合わせて検討します。

「空き家・空き店舗・空き地活用体制」を立ち上げます



まちなかに広がる空き家・空き店舗・空き地を管理し活用するニーズはありますが、活用のためには、それらの情報を集める必要があります。所有者から空き家・空き店舗・空き地を預けてもらい、活用する仕組みを地域主導で作っていきます。

協働のアクション（取り組み）
（行政機関等にご協力いただきたい取り組み）

まちなかの空き地などを利用した、小規模な災害公営住宅の整備



利用されない空き地がまちなかに点在することになりますが、そこに、まちなみ・景観へ配慮した、店舗空間の併設の小規模な災害公営住宅の整備を七尾市に要望します。高齢でも歩いて暮らしやすい生活環境の実現や、中心市街地の人口維持に繋がります。将来的には移住者も住みたく思うような、七尾らしい新しいスタイルをみんなで考えて作り出しましょう。

でか山が通っても簡単に壊れない道路舗装



現在の道路の舗装は、一本杉通りの景観に合わせた路面になっています。地震によって損傷していますが、地震の前もでか山が通ると壊れがちでした。
一本杉通りの景観に配慮した、壊れにくい舗装で復旧した道路は、明治から令和の家並みが息づく町の重要な要素の一つになります。

歴史的建築物の保全活用

一本杉通りをはじめ、七尾の中心市街地には多数の歴史的建築物が存在しています。様々な活動を通して、それらの保全と活用に努めます。観光や移住者の受け入れへの波及効果も期待できます。活用に向けた条例等の整備や支援制度によるサポートをお願いします。

活用する空き家・空き店舗の修繕

地震により多くの建物が損傷し、解体されているため、新たな開業や移住のための空き店舗・空き家が不足しています。被災した建物を店舗や住宅として活用できるような取り組みを考えています。被災した建物を被災当時の所有者ではない者が修繕することになりますが、そのサポートがあると、大きな推進力になります。

仮設商店街とまちなみの調和

仮設商店街は一本杉通りの中でも特に目立つ場所にあります。明治から令和の家並みが息づく町を目指すために、まちなみに調和するような外壁や外構の整備のためのサポートを期待しています。



方針 2
いろんな「屋」のふだんの魅力と ハレの日の魅力とを届ける

＃祭り　＃イベント　＃観光　＃コミュニティ形成

被災前には「青柏祭」、「花嫁のれん展」、「うますぎ一本杉」など祭りやイベントに取り組み、多くの方に来訪いただいていました。

地域の魅力を活かした行事を順次再開させ、持続させていきます。

「ちょんこ山」や「でか山」（青柏祭）の祭りは地域のつながりの基礎でもあります。少子化や新型コロナの影響がありますが、伝統を繋いでいけるような工夫が必要です。

一本杉通りの魅力はハレの日だけではありません。むしろ、日頃から「語り部処」などを通して、初めてのお客さまを温かく迎え、リピーターになっていただくような「お茶の間観光」にも取り組んできました。

被災後には地震の 1 か月後から「一本杉復興マルシェ」を実施し、多くの人が再会し笑顔になる場を作ってきました。

これからもハレとケのある通り、おしゃべりのある通りであり続けていきます。

進行中

ふだんの魅力を伝える「語り部処」の継続



「語り部処」では一本杉通りで商いをして暮らす方々の目線の語りを聞き、普段の一本杉通りを味わっていただけます。これからも継続していきます。

進行中

一本杉復興マルシェの実施



2024 年 2 月から 12 月まで毎月 1 回開催してきた一本杉復興マルシェは、2025 年も頻度や形式を検討して続けていきます。



進行中

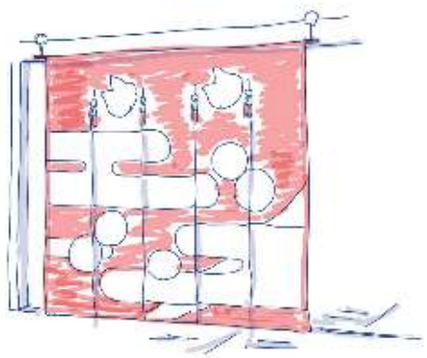
うますぎ一本杉の実施

「食」をキーワードに、通りがわくわくした気分で溢れる「秋の大市」をこれからも続けていきます。

進行中

花嫁のれん展の実施

次回：2025 年 4 月 29 日～5 月 11 日



花嫁のれんの文化を起点に、20 年前に始めました。花嫁のれんと一本杉通りを多くの方に楽しんでいただくイベントを、これからも続けていきます。

ハレの日の「おそろい」の装い



祭りやイベントに合わせて、通り沿いの各家や店舗を「おそろい」で飾り付けをしてきました。これからも続けていきたいと思います。

協働のアクション（取り組み）
（行政機関等にご協力いただきたい取り組み）

- 祭りの山車や道具をふだんから見せる「祭りの日常化」
- シャギリや子ども木遣りを受け継いでいけるような仕組みづくり

伝統を繋いでいくための工夫が必要です。



方針３
チャレンジを応援して
目的地となる“お店”を増やす

＃開業支援　＃次世代育成　＃発信　＃移住受け入れ　＃コミュニティ形成

一本杉通りやその周辺のまちなかには、訪れる目的地となるような場所が集まっていることが大切です。被災後には仮設商店街もでき、「他にもお店をできるところはないですか」と聞かれることもあります。

先代から受け継いできた私たちが踏ん張ることで、次の世代の人たちがやってみようと思える通りを目指します。

これからも、わくわくするようなことや場所がある通りでありたいと思います。

食が繋ぐ通り

能登の里山里海の幸が街道を通じて集まり、また北前船を通じて遠方とも食材の行き来がありました。
そうしたストーリーを大事にしながら、美味しい食べ物屋の PR や誘致を行います。観光客の立ち寄りや地域の住民の集まる場所を増やします。
能登のお土産をさらに生み出すことも目指します。

空き家・空き店舗を使った チャレンジショップ

チャレンジショップとは、新しい事業者が低コストで新規開業ができるような場所を提供する取り組みです。チャレンジを応援するための環境作りを空き家・空き店舗を活用しながら、進めたいと考えています。

センパイ事業者による 開業から継続へのサポート

新しい事業者が開業や経営の相談ができる関係を作ります。新しい事業者との意見交換は、センパイ事業者にとっても、新しい刺激を得る機会になると期待されます。

誘致

チャレンジする場所の提供

ノウハウの提供

一本杉通りとしてのブランディング・PR 活動

わくわくするようなことや場所がある通りへ



撮影：山田康太

協働のアクション（取り組み）
（行政機関等にご協力いただきたい取り組み）

まちなか子育て交流スペースの整備

例えば、みんなで使えるシェアキッチンや、特に不足しがちな冬の子どもが安心して遊べるスペース、福祉の活動ができるスペースなどの機能をもった施設が御祓地域に必要です。
その施設と商店街の連携を図りたいと思います。

所有者に対する空き店舗の修復支援

なりわい再建支援の補助は、すぐに営業するわけではない空き店舗には使えず、空き店舗の劣化や解体に繋がります。
新しい事業者を呼び込むための、被災した空き店舗の修復支援が必要です。

開業や移住に対する支援

行政機関をはじめとする様々な主体が協働した開業や移住に対する支援を実施することで、新しくチャレンジする人々が七尾に来やすくなります。

方針 4
まちの「復興」を外にひらく

＃観光　＃研修　＃発信　＃協働

被災状況を見に来る方々がたくさんいらっしゃいます。また団体の現地案内の依頼もあります。

一方で、これから数年かけて、まちの様子が変化していくと、以前の一本杉通りの様子がわからなくなっていくことが懸念されます。

避難所での生活や復興マルシェを始めたいきさつ、まちなみの変化等について、ぜひ多くの方に知っていただきたいです。

また、知っていただくことをきっかけに、ぜひ一本杉通りの復興にも関わっていただければうれしいです。

被災と復興の展示スペースの設置


宮城県石巻市の事例

パネルや被災前の地域の模型などを用いて、被災状況、復興過程、災害からの教訓などを伝えていきます。

被災と復興の語り部・視察の受け入れ

進行中



報道だけでは知り得ない、被災の経験や復興の状況を当事者が語り、地域の外の方々に考える機会をもってもらう活動です。

一本杉通り振興会のウェブサイトのリニューアル

進行中

再建していく店舗の現況を伝えたり、訪れた際のガイドになったりするようなウェブサイトにリニューアルします。

地域外の人々を積極的に受け入れ

進行中

インターンやプロボノ活動をする「外部人材」を全国から受け入れます。一本杉通りの復興に携わってもらいながら、地域づくりを実践的に学ぶ場にしてもらいます。地域内外を結ぶ、新しい繋がりが生まれます。

協働のアクション（取り組み）
（行政機関等にご協力いただきたい取り組み）

- 「復興を外に見せる」ための観光案内の充実
- ボランティアの方をはじめとする多くの関係者との協働・関係性の継続



方針 5
井戸端のある町、災害に常に備える町

＃防災　＃イベント

地震後、コミュニティセンターと花嫁のれん館の寄合処が避難所として使われました。長く断水の中でまちなかの井戸水が利用されました。災害への備えを日頃からしておくことが必要です。

豊富な井戸水はこの地域の資源でもあります。井戸・井戸水を活かした通りを目指します。

井戸水のマップづくり

一本杉通り周辺の井戸水について、所有者に話を聞きながら、地図を作成したいと考えています。水を飲めるかどうか、近隣のガーデニングの水やりに使わせてもらえるか、災害時のような非常時に使わせてもらえるかなど、地域で共有したい情報を盛り込んだ地図を作るアイディアです。



協働のアクション（取り組み）
（行政機関等にご協力いただきたい取り組み）

- 井戸を活かした環境づくり
  豊富な井戸水を活かした環境づくりを目指します。平常時にはガーデニングの水やりに活用し、非常時には水源としても利用します。
- 御祓地域づくり協議会等と連携した防災活動
  例）防災設備の訓練、備蓄物資の入れ替えを兼ねたイベント実施、自主避難所運用の仕組みづくり



撮影：山田康太

策定までの流れ

一本杉通り振興会役員を中心に 2024 年 7 月から 2025 年 1 月まで 6 回の検討会を開催しました。2024 年 11 月には地域の方々にむけた中間発表を行いました。多くのご意見をいただき、方針に反映しました。

7 月 26 日	第 1 回検討会
8 月 23 日	第 2 回検討会
8 月～9 月	会員事業者へのヒアリング調査
9 月 27 日	第 3 回検討会　中間とりまとめ
10 月 26 日	第 4 回検討会　中間とりまとめの修正
11 月 4 日	地域の方々にむけた中間発表
11 月 23 日	第 5 回検討会
1 月 30 日	第 6 回検討会　最終とりまとめ

策定メンバー

戸田　和貴	木下　美和子
森山　奈美	鳥居　貞利
森山　明能	鳥居　正子
岡田　翔太郎	関川　由美子
高澤　久	川嶋 亨
宮下　三郎	通　文子

一本杉通り復興ニュース

方針づくりの過程を広く公開するため、復興ニュースを発行し、地区内の各世帯に配布しました。





第 1 回検討会



第 3 回検討会は一本杉通りの模型を使って議論しました。







11 月 4 日に寄合処みそぎにて「一本杉通りまちの未来を考える会」を開催し、それまで議論してきた復興方針の案を、中間発表として地域のみなさまにご報告しました。また、後半のパネルディスカッションでは、七尾のまちなかや一本杉通りの将来について、会場のみなさまも交えて議論しました。



第 5 回検討会

中間発表でいただいたご意見（一部）

被災したときは井戸水を利用した。
使える井戸が地域にどれくらいあるか、御祓地区で調査するつもり。

井戸水は日常的に使ったほうがいい。

もとに戻すだけでなくて、もとよりいいものを作ろう。
住んでいる人がいる街の文化や商売は、イオン的なものとは大きく異なる。
空地に建物を立てるときは、住居と店舗を併設するよう心がけるなどするといい。

シャギリなど伝統的なものの引き継ぎを通じた
地域とのつながりを大事にしたい。

安全な道路が欲しい。
子どもが歩いているのを見るとヒヤヒヤする。

権利関係などを整理するためには、
地元信金や行政を巻き込んだ資産管理会社に
空き地や空き家を預ける仕組みも必要ではないか。

関心のある人たちはたくさんいるので、
今の状態でどんどんお迎えして見てもらうような
外への開き方をするフェーズだと思う。

私は七尾出身で金沢に住んでいるので、完全な外の人ではない存在。
これまで七尾の外でやってきたことを七尾でどう活かせるのか悩ましい。

他の地域では地域を一度出た若い世代が「復興団」としてまとまって、
交流のサロン開催をしたりしている。
そういうネットワークを活かすことも一案。

住んでいる人がいる通りなので、コミュニティの視点も大事。
祭りもその大事な要素。生活者の視点が欠けている。

ボランティア団体としては、
一人でも多くの人に能登に、七尾に来てもらって、
一本杉の方と仲良くなってもらって、
また来てみようとなるきっかけにしてほしいと思って声がけをしている。

みんなにやさしい一本杉になればいいと思う。

最終とりまとめまでは、みんなでどんどん言いたいことを言って、
決めたらそこに向かってみんなで進むことが大事。

一本杉通りの模型について





第 3 回・第 5 回の話し合いと中間発表では、一本杉通りの被災前の姿を 50 分の 1 の縮尺で復元した模型を活用しました。この模型をみると、地域に育まれてきたまち並みを俯瞰することができます。話し合いでは、建物の改修や建替え、あるいは更地となる場所の把握と情報整理を行いました。

一本杉通りの模型は、一本杉通りにある岡田翔太郎建築デザイン事務所主催のもと、全国にボランティアを募って一本杉通りの再建のために制作されました。



一本杉通りでは、2007 年に一本杉通りの魅力についてまとめた冊子「一本杉通り千年憲章」を作っていました。「一本杉通りの復興方針」は、この言葉を参考にしながら議論しました。

一本杉通り千年憲章

そのむかし奥能登へと向かう街道筋にあった一本杉が、
人々に「出会いの一本杉」と呼ばれ、
目印として親しまれていた頃にさかのぼるなら約五百年。
さらに、守護としてふるさとを治めた能登畠山氏創設の頃にまで
さかのぼるなら、ゆうに六百年をこえる時が流れています。
そう、やがて千年をさえ迎えるはずの一本杉通りは、
千人いれば千人が、それぞれに千の言葉で、
千の物語を口にする町です。

四季と五感と向う三軒両隣を、
ずっとずっと紡ぎ続ける一本杉通り千年憲章。
一人の言葉を千人が耳にすることを思い、
一人の物語を千人が語りつぐことを願いながら、
誰もが自分の言葉で語り自分の物語で誇る、
一本杉通りは千年を超えてそんな町であり続けます。

向う三軒両隣の章

千年憲章の町は、
千の物語が向う三軒両隣をいきかう町です。
ほらっ、千の言葉がふりつむ。

一　千年憲章の町は、仙対橋という名の朱い玄関がある町です。
二　千年憲章の町は、なんとも言えない道幅がちょうどいい町です。
三　千年憲章の町は、いろんな「屋」がいっぱいある町です。
四　千年憲章の町は、文人や粋人にも愛される懐の深い町です。
五　千年憲章の町は、しつけ役も叱り役も元気な町です。
六　千年憲章の町は、明治から平成の家並みが息づく町です。
七　千年憲章の町は、住んでる人が住んでる人を互いにもてなす町です。
八
九
十

四季の章

千年憲章の町は、
千の物語が四季をいきかう町です。
ほらっ、千の言葉がふりつむ。

一　千年憲章の町は、ちょんこ山が春を連れてくる町です。
二　千年憲章の町は、不思議なのっぽ電柱のある町です。
三　千年憲章の町は、軒先のツバメがうれしそうな町です。
四　千年憲章の町は、花嫁のれんを心に抱いている町です。
五　千年憲章の町は、黒い屋根瓦で紋白蝶が羽をやすめる町です。
六　千年憲章の町は、打ち水も雪かきもみんなでする町です。
七　千年憲章の町は、ときには新しい季語も生みだす町です。
八
九
十

五感の章

千年憲章の町は、
千の物語が五感をいきかう町です。
ほらっ、千の言葉がふりつむ。

一　千年憲章の町は、もったいないくらい、いい匂いのする町です。
二　千年憲章の町は、しゃぎりが聞こえる町です。
三　千年憲章の町は、でか山の地響きが胸に熱い町です。
四　千年憲章の町は、石畳や石彫が石燈にゆれる町です。
五　千年憲章の町は、花びらや夕焼けもそっと訪れる町です。
六　千年憲章の町は、何気に日本の伝統色があふれている町です。
七　千年憲章の町は、聞き上手な語り部たちがいる町です。
八
九
十

千の言葉がふりつむ。千の物語がいきかう。
七尾一本杉通り千年憲章の町。
一人の言葉を千人が耳にすることを思い、
一人の物語を千人が語りつぐことを願いながら、
誰もが自分の言葉で語り自分の物語で誇る、
一本杉通りは千年を超えてそんな町であり続けます。

一本杉通り千年憲章　制定／平成十九年四月八日
一本杉通りまち育て委員会



一本杉通り周辺の航空写真（2024 年 4 月時点）

0　50　100　200 m

データ出典：国土地理院



2025 年 3 月 23 日作成

作成・問い合わせ先

一本杉通り振興会（石川県七尾市）

協力

会員事業者へのヒアリング調査：
一本杉通り振興会 インターン 近藤 聖夏、森 碧衣

検討会記録、復興ニュース作成：
東京都立大学 前山 倫子

検討会ファシリテーション、復興ニュース・冊子作成：
東京都立大学 益邑 明伸